

第一章・動き出す福智 ②

官民一体となったブランディング活動が
福智町を躍進させる

創造から 確立へ

まちの魅力を発信するのに欠かせないのは、やっぱりおいしいご当地メニュー。

福智の風土とストーリー、つながりを大切にしたり、かけがえない逸品がスポットを浴びています。

ご当地グルメや絶品スイーツがまちの彩りに「おいしさ」という魅力を添えました。



炭鉱爆発事故の際に各家庭から持ち寄られた食材で作られたすいとんがルーツの福智名物

官民一体で創り上げた ご当地グルメ

平成23年、町内の飲食店店主や町職員を中心にさまざまな業種の人たちが集まって「特産品開発委員会」が発足し、ご当地グルメの開発が始まりました。郷土の食材を使ったユニークなメニューが多数提案される中、最も「福智らしく」、また「ここにしかないもの」として選ばれたのが福智名物となる「方城すいとん」でした。

かつて炭鉱の町として栄えた旧方城町。炭鉱長屋では人々が支え合って暮らしていました。そんな方城町を突然襲ったのが、大正3年12月15日に起こった「方城大非常」です。国内最大の炭鉱爆発事

12月15日に全校に並ぶ
福智ブランド給食

福智町産の野菜

ふくち★リッチジェラート



方城すいとん

大福おばちゃんのかしわ飯

故で、その犠牲者は670人以上。

この事故で親を亡くした子どもたちにはふるまわれたのが、「すいとん」だったのです。各家庭で食材を持ち寄った温かいすいとんは、孤児たちの不安な心をどれだけ癒し、生きる力を与えたことでしょう。

炭鉱の歴史や地域の絆を今に伝える方城すいとんは、まさに郷土が誇る味。特産品開発委員会では、伝統的な作り方をベースに素材やレシピを改良し、現代のご当地グルメとして大人から子どもまで親しめる味わいに仕上げています。

福智の風土にこだわることから始まった 特産スイーツの商品開発

ご当地グルメとともに、旅の楽しみやお土産品として必須なのが甘いスイーツです。特産品開発委員会で試行錯誤の上開発された「ふくち★リッチジェラート」は、福智産のフルーツや素材を贅沢に使い、濃厚でリッチな味わいにこだわったジェラートです。福智で生産される「博多あまおう」とよみつひめ」「卵」や「黒豆きなこ」などを使用した定番6種類の他、ふるさと納税でしか味わえない限定商品も用意しました。

販路の開拓にも積極的に取り組み、通信販売をはじめコンビニ・ストアなど、筑豊地域のさまざまな店舗で展開。生産やPR、販促活動のため、一般社団法人福智ブランドファクトリーが設立され、新たな雇用も生まれました。

開発から生産、流通、販売、商品管理まで多様な人々が携わり、大切に育てながらブランド力を高めてきたご当地グルメやスイーツたち。まちに多くの人を呼び寄せる福智の「顔」に成長しています。

ふるさとの歴史、先人の想いを継ぐ——忘れない。温かくて懐かしい味を

福智好いとん隊

伝え続ける福智の温もりと子どもたちのまなざし

ご当地グルメ「方城すいとん」の誕生とともに、PRのため結成されたのが「福智好いとん隊」です。福智町役場の職員が中心となって発足し、平成24年の日本青年会議所主催の「全国地域たからいち」では、飲食部門で70団体中の最高位のグランプリを獲得しました。町内でも方城すいとんを扱う飲食店が増え、学校給食にも登場。一気に注目される大きなきっかけとなりました。

福智好いとん隊では、「方城大非常」を風化させないための取り組みを行っています。当初から、事故が起こった12月15日には町内で方城すいとんのふるまい会を開催。また、町内全域に全ての炭鉱殉職者への黙とうを呼びかけました。さらに、町内全校で郷土と炭鉱、そして尊い命の学習と「方城すいとん」の給食メニュー化も実現。今や「方城すいとん」の給食は町外の学校でも取り入れられています。素朴な団子に、地鶏の旨みと地元産野菜の甘みが加わった滋味あふれる方城すいとん。ひとさじ口に運ぶと、やさしい味がお腹と心を温かく満たしていきます。未曾有の炭鉱事故から100年以上が経ち、飽食の時代ともいわれ



福智ブランドの先駆けとなったジェラート。全国に多くのファンを持つまでになった